



## こどもが主役の街「キッザニア」

西尾理恵

キッザニアとは、こども達が楽しみながら、働くことの意味や社会の仕組みを理解することを狙いとする職業・社会体験施設である。平成18(2006)年10月に東京都江東区豊洲にオープンし、連日多くのこども達でにぎわっている。その2施設目が平成21(2009)年3月に兵庫県西宮市甲子園にオープンした。90種類以上の仕事や習い事が体験できるキッザニアの街にある建設現場パビリオンが出来上がるまでを紹介する。また、その他キッザニアの街にある建設業に関わる仕事や体験ができるパビリオンについても紹介する。  
キーワード：キッザニア、こども、働く、建設現場、タワー、橋

### 1. はじめに キッザニアとは

キッザニアは、こども達が好きな仕事にチャレンジし、楽しみながら社会のしくみを学ぶことができる、日本初のエデュテイメントタウン<sup>\*1</sup>である。

<sup>\*1</sup>エデュケーション(学び)とエンターテインメント(楽しさ)を組み合わせた造語

キッザニアの入口には、大きな飛行機があり、飛行機に乗って「キッザニア国」へ到着し、空港を潜り抜け入国する設定になっている。空港から街へ入ると、本物そっくりなお店や施設が立ち並ぶこどものための街のしつらえになっている。施設の中の街並みの大きさは現実社会の約2/3サイズに作られており、こどもの目線に合わせて設計されている。この演出により、こども達は自分たちが大人になりきった感覚を持つことができ、キッザニアでの体験が深く印象付けられる。



写真-1 キッザニア甲子園 エントランス

また、働く前には、それぞれの仕事や体験に関連した話や働く上でのルールが説明され、こども達一人ひとりに役割が与えられる。ユニフォームに着替えスー

パーバイザーの説明を聞いて仕事体験(または社会体験)がスタートする。こども達が消防士、キャビンアテンダント、モデル、医師などのお仕事やスポーツクラブなど習い事やものづくりを体験する。



写真-2 ユニフォームを着たこども達

各パビリオンでは、こども達の年齢や興味に合わせて、さまざまな種類・難易度のアクティビティ(具体的な仕事や体験)がある。パイロットになって飛行機を操縦、消防士になって消火活動、ハンバーガーショップの店員になってハンバーガーづくり、新聞記者となって街に繰り出し取材をして記事を書くなど、大人になりきって体験することができる。働いたら、お給料として専用通貨キッズが支払われる。仕事をして給料をかせぎ、そのキッズを使って、街の中で様々な体験をすることで、こども達は働くことの大切さや苦勞、そして需要と供給という社会のしくみを自然と学ぶことができる。

また、街の中にあるパビリオンの多くにはそれぞれ



写真—3 キッズニア独自通貨「キッゾ」



写真—5 建設現場パビリオン外観

スポンサーがついており、街並みの看板やキッズニアで体験できるアクティビティのノウハウを提供している。2010年4月現在、その企業は2施設で80を超えている。多くのスポンサー企業に支えられながら日本の子ども達をとりまく環境や「こども議会」<sup>\*2</sup>のアイデアを反映し、未来の社会を担う子ども達のための施設をめざしている。

<sup>\*2</sup> こどもが主役の街「キッズニア」をより良くするために活動している小学生のグループ



写真—4 キッズニア甲子園の街並み

## 2. 建設現場パビリオンでの仕事

キッズニアの建設現場パビリオンでは、子ども達は「建設スタッフ」として、キッズニアの新たなランドマークとなるタワーとアーチ橋をつくる。

まず、子ども達は、「建設スタッフ」になりきるためにユニフォームを身につけ、スーパーバイザーと同じユニフォームを着て、仕事の準備をする。

次に、それぞれの役割に分かれて、作業現場につく。クレーンを操作・誘導するグループ、タワーの部材を地組みし、取り付けるグループ、そしてアーチ橋を組み立てるグループがそれぞれの持ち場で協力しながら仕事をする。どの仕事にも共通していることが3つある。



写真—6 建設現場でのユニフォーム姿

- ①仕事は作業だけでなく、頭を使って考えてから作業すること
- ②一緒に仕事を体験する仲間と協力して仕事をする
- ③建設現場は、危険が伴う場所であるため、廻りを注意しながら仕事をする



写真—7 合図に合わせてクレーンを操作します

最後に、それぞれが協力して完成したタワーとアーチ橋は自分たちで完成を確認する。タワーは「点灯式」を行い、アーチ橋は「渡り初め」ができる。カウントダウンをしてタワーが点灯した瞬間や、自分たちで作ったアーチ橋を渡りきることができた瞬間に、こども達は達成感を味わうことができる。さらに同じ時間を共にした仲間と完成したタワーとブリッジを背景に竣工写真を撮り終了である。

### 3. キッザニア甲子園建設パビリオンができるまで

先に述べたように、キッザニアの街はたくさんのスポンサー企業に支えられている。スポンサー企業は、キッザニア甲子園に協賛するにあたり、こども達に大きなタワーや橋をどのように建てるのかへの興味を喚起し、こども達がみんなと一緒に考えながら体験することで「ものづくり」のおもしろさを体験し、元気に声を掛けあい協力して仕事をやり遂げることを通して、社会生活に必要な積極性・協調性や人とのコミュニケーション能力を身につけてほしい、と考えている。

また、スポンサー企業は、建設業という事業活動を通して地域社会に溶け込み、未来の社会に貢献する企業でありたいとの思いから、キッザニア協賛の目的を、企業市民としての役割を果たすCSR活動の一環と位置づけている。次世代を担うこども達が、夢や目標を持ち、社会の中で使命感を持って働くことの大切さを学ぶことをスポンサー企業として応援することにより、明るい未来づくりに貢献したいと考えている。

キッザニアでのアクティビティづくりは、スポンサー企業の実業や協賛の目的・狙いをアクティビティの中に盛り込みつつ、多岐に亘る建設現場の仕事を限られた時間内でこども達が体験し「建設業」という仕事に興味関心も持ってもらうことができるかを考えて作り込みを行った。

まずは、スポンサー企業の実態を知るために実際に仕事をしている現場を訪問し、そこで働く人たちに様々な話を聞いたりする。今回は、種々のポジションで働く人が一堂に会し、キッザニアとは何かを理解頂いた上でどんなアクティビティをやりたいかのアイデアを募った。様々なアイデアが出されたが、こどもだましのゲームではなく、楽しい仕事体験のアクティビティにしていくために、テーマを決めて作り込みを始めた。スポンサー企業は建設業のプロ、そしてわたし達はこどもに分り易いシナリオ作りのパイオニア、更に内部造作を担当する内装業者も含めて、何度も話し

合いが持たれた。それぞれの立場から様々な意見が出され、白熱した論議の結果、現在のパビリオンのアクティビティが誕生したのである。

更に内部造作完成後もスポンサー企業からは、こども達の“職場の先輩”であるキッザニアのスタッフ「スーパーバイザー」へのご指導まで頂いた。スポンサー企業の熱い思いと、スーパーバイザー達の努力でキッザニア甲子園の建設現場パビリオンは、日々こども達に建設業の仕事の重要性と醍醐味を伝えている。

### 4. 体験したこども達の声・保護者の方の声

キッザニアの建設現場パビリオンを体験したこども達やその保護者の方からはたくさんの感想が寄せられている。その中から、パビリオンでの体験を通して建設業の仕事について新しい発見をしたり感じた、という声と、現場でこども達と日々接するスーパーバイザーが体験したエピソードをいくつかご紹介する。

#### <こども達の声>

- ・「外から見ていると簡単そうだったけど、仕事を体験してみて街の中でとても大切な仕事であることがわかった。」
- ・「俺、大人になったら本当にクレーンを運転する仕事をしているかもしれないなあ。」
- ・「僕のお父さんは“玉掛け”の資格を持ってるんだ。だから、僕も玉掛けの仕事をするんだ。」
- ・「建設現場には色々な仕事があるんだね。全部体験してみたいよ。」
- ・「建設現場はみんなで力を合わせないといけない大変な仕事だけど今日はできてよかったです。」
- ・「自分のためではなく、街の人のためにする仕事だからすごいと思う。」

#### <保護者からの声>

- ・「仕事というのはデスクワークのサラリーマンだけではない。本当の建設現場には入ることはできないけれど、キッザニアで体験することで街の中の現場に目をむけるきっかけになります。こどもにとって将来の目標がみつきりそうですね。」
- ・「最後に“竣工写真”を撮影するなんてほんとにリアルですね。」
- ・「普段親の話を聞かないこどもが、真剣な目でスーパーバイザーの話を聞き仕事をしている姿を見て安心しました。」

#### <スーパーバイザーが体験したエピソード>

- ・パビリオンの中は、リアルな建設現場を再現し、建設現場には必ずある「安全十則」を掲示してい

ます。あるこどもがそれを読んで「なかなかいいことが書いてあるなあ・・・」と感心していました。キッザニアで仕事を体験することも達には様々な人がいます。建設現場パビリオンは互いに協力しなくては仕事が成立しません。障害を持ったこどもがいると一緒にあって、協力して仕事をしてくれます。キッザニアで初めて出会ったこども同士でもすぐに協力して仕事をしてくれるのでいつも感動しています。

このように、パビリオンで毎日こども達と接しているスーパーバイザー達からもうれしい言葉をたくさんもらっており、筆者自身いつも感動を覚えている。

## 5. キッザニアの街の建設業

キッザニアには、建設現場パビリオンだけでなく、いくつかの建設業に関する仕事が体験できるパビリオンがある。

### (1) 住宅建築現場

こども達は「建築士」として、お客様の要望に合わせて、実際に車椅子などを使って検証しながらユニバーサルデザインの住宅設備について考える。最後に完成したプランを1枚の提案書にまとめる。



写真一八 車椅子で廊下幅の検証を行う

### (2) モデルハウス

こども達は「大工」として、家を建てたいと思うお客様のために、モデルハウスをつくる。みんなを幸せ

にする家作りを考える。

「壁パネルの施工」「窓パネル、玄関ドアの施工」を行います。「床の施工」「配管の施工」「階段の取付」を行う。完成したら写真を撮る。



写真一九 玄関ドアの施工をします

## 6. 最後に

キッザニアは、メキシコで誕生し、現在世界に8箇所あり、これからも広がって行く計画である。日本のキッザニアを企画・運営する私たちは、こども達が楽しみながら、働くことの意味や社会の仕組みを理解する“エデュテイメント・タウン”がテーマパークにとどまらず、学校の課外授業、総合学習科目での活用、学年ごとの学習指導要綱と結びつけた段階的な体験の提供などによって、学校教育と連動し教育的な要素も一層高めていきたいと考えている。キッザニアで仕事体験・社会体験をしたこども達が職業選択を意識するようになるには、早いケースでもあと数年を要するが、キッザニアでの体験がきっかけで職業を決めたと言ってくれるこども達が現れることを期待している。

JICMA

### 【筆者紹介】

西尾 理恵 (にしお りえ)  
 (株)キッズシティージャパン  
 キッザニア東京  
 スポンサー部  
 マネジャー

